

「小河内」便り 第47号 平成29年5月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 安福孝昭）

連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>



季節は入れ替わり、今の時期は気温も上がり、小河内の野山は新緑がきれい、田植えも大半が終わり、野菜も育ち、農地が活気を取り戻したようです。春はスタートの季節ですね。秋の実り、無事に自然の恵み（収穫）が迎えられるよう祈ります。

目次

平成29年度「田舎暮らし体験塾」計画	P1～2
平成29年度第1回「田舎暮らし体験塾」開講式	P2～3
総会案内	P3～4
広島市立白島小学校5年生農業体験、田植え	P4
小河内の今	P4
編集後記	P4

平成29年度、田舎暮らし体験塾、計画

1、カリキュラム

回	日時	カリキュラム
第1回	5月13日(土)	開講式、オリエンテーション、農作業等
第2回	6月3日(土)	地域観察会（殿之霊神社～棚田～西福寺）農作業
第3回	7月8日(土)	農作業（春夏野菜の収穫）
第4回	9月16日(土)	農作業（秋冬野菜の定植等）
第5回	10月14日(土)	柿もぎと吊るし柿づくり
第6回	11月11日(土)	餅つき（昔ながらの餅つき）
第7回	12月16日(土)	門松、しめ縄づくり
第8回	1月7日(日)	とんど（地域行事に参加）
第9回	2月3日(土)	味噌、豆腐づくり
第10回	3月3日(土)	閉講式、農作業（農園整備）

2、自由参加（選択制）・・・塾生が都合の良い時に希望するチームの活動に参加

(1) プロジェクトチーム活動

- ① 農林業実習プロジェクト・・・生産から販売までを実践、（一部は安田女子大と連携）
- ② 空き家イノベーションプロジェクト・・・塾生の活動拠点と住民との交流の場にリフォーム

③ 地域貢献プロジェクト・・・地域の困りごとへの対応（自治活動や環境・美化活動を支援）

(2) 住民との交流（コミュニケーションづくり）・・・地区行事等に参加（花見や芝居見物、祭り参加）

これらの活動を通じて、住民とのコミュニケーション、信頼関係の醸成を図り、塾の活動が住民に見えるようにし、距離感の解消に努める。

3、フリー活動・・・個人又は仲間との私的な自由活動（小河内をフィールドに例えば、登山、写真撮影会、ホテル狩り、料理講習会、散策・・・）

【1】「田舎暮らし体験塾」の目的

- ・都市と農村のWIN-WIN（互惠）関係のモデルを構築
- ・豊かな人生（QO=生活の質、幸せで満足のいく生き方）を創造
- ・自然、環境、農業（食）の大切さに気づき、感謝
- ・農村の今日的課題を知り、その解決に貢献

【2】「田舎暮らし体験塾」について

$$(1) \text{小河内にあるもの（田舎の資源）} \times \text{都市にあるもの（都市の力）} = \text{新しい価値誕生（仮説）}$$

(2) 期待する効果（新しい価値）

- ① 田舎の魅力体験からのステップ・・・（7K=関心、興味、感動、共感、決心、行動 + 幸福）
- ② 人材育成・・・農村問題を考え、行動する、田舎ファン、営業マン
- ③ 田舎、農村に対する価値観やイメージの転換・・・

農業の3K（危険、暗い、きつい）から6K=健康、環境、感動、考え、稼ぐ産業、かつこいい）

- ④ I・Uターン（住所移動）、2地域居（生活の本拠地は移さず、別荘や仕事場として使用）として
- ⑤ 働く場の創造・・・起業（農業、特産品、困りごとの商品開発、販売）
- ⑥ 社会との連携・・・行政、大学、NPO、経済界、金融機関、マスコミ・・・

平成29年度、塾生の内訳

住所別

区別	安佐北区	安佐南区	中区	南区	東区	西区	計
人数	4	9	3	2	3	6	27

年令別

年代	30代	40代	50代	60代	計
人数	5	6	5	11	27

家族で参加 4世帯

平成29年度、第1回田舎暮らし体験塾、開講式



挨拶する安福理事長



来賓祝辞をされる立岩安佐北区長様



農園で集合写真（塾生、来賓、スタッフ）



スタッフからトラクターの運転指導を受ける塾生



畝立て機で作業する塾生



土づくりについて説明する安佐北区職員



第1期改修を終えた弥太郎ハウスを見学する塾生



休耕田の草刈野状況を見学する塾生

総会のお知らせ

平成29年度（第7期）通常総会を次のように開催します。追って、正会員様にはご案内致します。

日時：平成29年6月4日（日）13：30

場所：小河内集会所2階大ホール

白島小学校児童農業体験、田植え

5月19日（金）広島市立白島小学校5年生と先生約80人が大型バス2台で来所、地元スタッフの指導で水田（約1反、1000㎡）に田植え（手植え）を体験、子供たちは素足で田んぼに入り最初は戸惑っていたが次第に慣れ約30分で終わった。午後はお米づくりのお話を聞き、活発な質問がでた。普段静かな農村も元気な子供の声で賑わった。



田植えの仕方を教えるスタッフ



児童達は泥んこになりながら田植え



約35人ずつ2列に並び田植え



田植えの後、米の作り方についての勉強会

小河内の今



田植えの済んだ棚田（三根地区）



モリガエルの産卵（元沢田集落）

編集後記

当小河内地区は高齢化と人口減少が急速に進み、過疎地を象徴する地です。戦後8つの集落が消滅しました。そのある集落を訪れてみたら、主はいなくなっても庭先の桜もツバキもちゃんと花を咲かせていました。花は人が見ていようがまいが、春になるとちゃんと花を咲かせる、愛おしさを感じます。自然は正直で律義です。こうした自然の偉大さ、素朴さを求めて、昨年1年間、地区外から住民の約4倍を超える1600余人がこの過疎地、小河内を訪れました。自然には人知の及ばない大きな力、魅力があるのでしょうか。今年も田舎暮らし体験塾生（27名）や白島小学校児童、安田女子大生等の都市住民が小河内に通います。農業の苦労や楽しみ、田舎の魅力等を学んで欲しいと思います。（S）